

題字 宗像 精

第89号

令和8年7月11日

発 行 者

福島県公立学校

退職校長会長

北会津支部長

菊池芳次

『斗南藩に見る日新館教育』

に思う

副支部長 本田 樹



しました。そこで会津藩民の苦難の終着駅「斗南藩」について書き残してみようと思ひ書かせて頂くことにしました。

令和八年度の総会もつづがなく終了し、本会の目的である「教育の振興に寄与」「会員相互の親睦」「生活の向上」の目的達成に向け、活動がスタートしました。

さて、この度会報「またあいづ」へ寄稿する機会を頂き、題材を何にしようか迷っていたとき、過日飯盛山で開催された墓前祭にて白虎隊の剣舞奉納を拝観する機会があり、戊辰戦争に思いを馳せたことを思い出

哲学があった。もし、幕末に会津藩という存在がなかったら、人間などというものは信じられなかっただろう。」と記しています。

斗南同様ここ会津も、深い雪に閉ざされることを宿命に生きてきた土地です。雪に抵抗し、あるいは雪を利用しながら、じっと籠居する生活に耐え続け、やがて来る春の陽射しを待つ会津人たちの中に育まれたものこそ、『日新館教育』の教育観の中にみることができると気がします。

教育に携わってきた私たちにも先人が築いてきたこのような思いが、脈々と継承されている気がします。

昨年度の教育懇談会で講演頂いた鶴賀イチ氏の「現代につながる藩校日新館教育」を拝聴してから、退職校長としてこのような思いを伝え継承していくことが大事な事かと痛感しております。

それは、もしかすると「生真面目さ」だったかもしれないと思うこの頃です。

悠悠模型展

秦 尚志



令和三年、コロナの嵐が吹き荒れていた。日本中が、好きなこともできず悶々としていた。ある日、札幌から学校に電話がかかってきた。「私が作った天鏡閣の模型をお譲りしたい」としばらくして模型が届いた。とても精密に作られた模型だった。前からドールハウスの興味があった秦の心に火が灯った瞬間だった。(プロジェクトX風に読んでいただきたい)

自分でも作ってみたくあった。旅行に行けない憂さ晴らしにもなる。挑戦してみるか決心した。(ここで「地上の星」しかし、一つひとつ自分で作るのは無理だ。いろいろ調べた。某通販サイトでキットを発見した。キットなら楽勝だと思ひ早速注文。キットが届い

た。わくわくして、開封。しかし、説明書は英文だった。キットは放置された。しばらくして、翻訳アプリがあることに気づき、作成を再開した。翻訳アプリで楽勝のはずだった。しかし、「なんだ、この説明、意味不明だ」とばやくことが続き、憂さ晴らしのはずが、ストレスを抱えることに。数ヶ月後、作品は完成した。

数ヶ月にも及ぶ格闘の日々、感慨に浸り一人祝杯をあげた。ここで気がついた。説明書が悪いのではない、飲みながら作っていた自分が原因だった。しかし、簡単に反省しないのが私である(開き直ってどうする)今も、ほろ酔いで、「こんな説明で理解できると思ひなよ」とわけの分からぬ悪態をつきながら一年に一作のペースで作り続けている。

(ヘッドライト、テールライト)



支部総会・講演会開催

四月十二日、富士寛樹県

会長様を始め多くのご来賓
のご臨席のもと支部総会
がルネッサンス中の島を会
場に行われました。(四十
四名出席)

物故会員への黙祷、国歌
斉唱に続き、菊池支部長の
挨拶では、定年の延長もあ
り新たな入会者が少ないこ
と、活動内容を精選・充実
させて魅力ある会にしまし
ねばならないことなどを話
されました。



支部長あいさつ

新たに入会された方々の
出席がなく、代表挨拶は割
愛。次に米寿、喜寿を迎え
られる会員の紹介お祝い
は、喜寿を迎えられる佐藤
憲様、渡部四郎様に記念品
が贈呈され、お二人からは

謝意のご挨拶をいただきま
した。

続いて、菅家敏之様の議
長のもと、令和七年度事業・
会計報告、令和八年度事業
案、予算案について審議さ
れ、原案通り承認されまし
た。また慶弔規定の一部改
正も承認され、総会を終了
しました。

季語は約八千

総会に引き続き、講演会
です。講師は、令和七年度
県文学賞「俳句部門」準賞
を受けられた湯田一秋様で
す。

著名な俳人の句から、俳
句の基本について、徐々に
ご自身で詠まれた俳句を紹
介しながら、「俳句の楽し
み」を話してくださいまし
た。以下、講演の一部を紹
介します。

亡き母の戻り来さうな雪明り

最後の「雪明り」これか
ないと寂しさが広がらない。
八千の季語の中からうまく

取り入れることが重要であ
る。

青田波ふる里の山動かさる

風薫る母の生家の藍染屋

時折思い出すふる里の景
色や生活を詠み楽しんでい
る。俳句は、時空を超えて
楽しむことができる文芸で
ある。



講師 湯田一秋氏

〈季節ごとの句を〉

峰白き遠磐梯や畑を打つ

初夏の風をにぎりて

吾子立ちぬ

秋日和

ハート模様のラテ・アート

自在鉤無尽蔵なる雪の積む

偕老の窓へほのかな初明り

俳句は、自然の美しさや

いとおしさ、時の流れ、世

の無常などを教えてくれ、

生きる喜びを膨らまし、悲

しみや苦しみを癒してくれ

るなど、生活を豊かにして

くれる。俳句は、自然や宇

宙、人生などの森羅万象を
詠む文芸である。

とても素敵で一時間でし
た。

新入会員紹介

心より歓迎致します。

(一) 役職定年校

鈴木 正和 様(鶴城 少)

岩淵 邦雄 様(日新 少)

渡部 朋史 様(若松二中)

鈴木 雅彦 様(猪苗代中)

横山 泰久 様(喜多方一中)

小関 英紀 様(高田 中)

鈴木 正和

会津美里町は初めての勤
務のため、校務や諸会議に
戸惑っております。この新
鮮な気持ちと北会地区で育
てていただいたことを忘れ
ずに、少し離れた所から貢
献してまいります。

岩淵 邦雄

故郷である会津坂下町の
教諭として教員人生を続け
ております。研究主任・初
任研・教育調査等の校務分
掌と四年理科・三年図工・
四・五年算数T2の授業を
担当し、精一杯の毎日です。

渡部 朋史

若松二中で役職定年を迎
え、四月から特例任用校長
として河東学園に勤務して
います。初めて経験するこ
とも多く、楽しい毎日です。
今後ともどうぞよろしくお
願いいたします。

鈴木 雅彦

校長会の感謝状に「幾多
の困難を克服し…」とあり
ますが、美しすぎる賛辞に
苦笑してしまいました。今
後は、先輩会員の皆様と共
に楽しい困難を求めて時を
過ごしていきたいと存じます。

横山 泰久

妻と一緒に退職してすぐ
に長野から山梨、静岡の道
の駅を巡ってきました。時
間を気にせず素敵な景色と
その土地の食べ物を楽しん
できたところです。今度は
北に向かいます。

小関 英紀

今年度常勤で働いており、
定年退職も六十三歳に延長
になりましたので、本格的
に活動に参加させていただ
きますのは、数年後となる
かと思えます。今後ご指
導よろしく願いいたします。

第六十回 福島県公立学校退職校長会西白河大会

六月九日、第六十回西白河大会は、白河市のシン鹿島で行われ、本支部からは十三名が参加しました。

富士寛樹会長のあいさつの中に、次のようなお話がありました。



富士寛樹会長

行委員長からは、本大会の開催を引き受けることで、会員相互の結びつきが強まったこと、役員の引き受け手が少なくなる中、組織の見直しなどをして一人一人の負担軽減を図ってきたこと、本支部を持続可能なものとするためにさらに努力していかねければならないことなどが話されました。

講演

史跡小峰城跡の

地震被害から復興への姿

・学校数の減少、退職年齢の引き上げ、価値観の多様化などから、本会への入会率は五十％を割り込んだが、改めて入会率八十％を目指していくこと

・現職校長との話合いや関わり合いを更に充実させ、多忙を極める学校現場の応援団としてよりよい教育環境の構築に向け支援していくこと

・役職定年後の再就職や資産形成、年金等の有益な情報を提供するなど、入会のメリットを可視化すること
続いて、鈴木且雪大会実



鈴木 功 氏

講師は、白河市建設部文化財課文化財専門研究員の鈴木功氏です。国指定史跡である小峰城の歴史について紹介があった後、平成二十三年の東北地方太平洋沖地震によって、崩落や変形の被害を受けた石垣の修復について話されました。

文化財としての石垣の復旧であり、強度のある伝統工法による修復を基本としたこと。そのために、崩れた石垣の石一つ一つに番号を打ち、崩落以前の写真をとに一石ずつ元の位置を特定していったこと。気の遠くなるような工程ですが、その一つ一つを丹念に丁寧に行ってきたことなどを話されました。このような修復方法は、大変な評価を受け、熊本城や金沢城の復旧など全国に波及しているそうです。

石垣の修復が成った後も、史跡として小峰城の新たな整備を進めているとのこと、これまで何度も小峰城を訪れています。この講演を聞き、改めて行ってみたいと感じました。

体験発表

午後は、体験発表です。

安達支部の日下部善巳氏からは、『「石川弾正顕彰会」の創設と活動』という題で、故郷の歴史を知りそれを次世代へ引き継いでいく活動についてお話がありました。相馬支部の高橋誠氏から

は、東日本大震災の体験から、これまで取り組んできた様々な防災教育の実践についてお話がありました。

肉眼では見えない世界に迫る

体験発表のもうお一人は、本支部の滝沢玲子氏です。



滝沢玲子 氏

昔語り調で始まった発表。机に目を落としていた多くの会員の顔が上がります。

小さな世界に迫る

顕微鏡を使つてのコケ植物の観察。鶴ヶ城公園には石垣や樹の幹、屋根などに五十三種類以上のコケ植物が生育しているそうです。その種類の多さに大変驚きました。

遠い世界に迫る

双眼鏡を使つての野鳥の観察。サンコウチョウ、クマタカ、バンを題材に、自然の中に生きる野鳥の日常を紹介されました。カラスが来ると、クマタカは逃げ

るんですね。大きい鷹なのに。

未知なる世界に迫る

まだ見たことのない菅沼湿原を探索。黒森山での滑落にも負けずリベンジ。珍しい植物に迎えられ、環境省のレッドリストで準絶滅危惧種に指定されているオミズグケが生育しているところを発見されたそうです。

紙面の都合上、このような中途半端な形でしかご紹介できないのが大変心苦しいです。滝沢氏のこれまでの実践は、正に「センス・オブ・ワンダー」そのものだと感じました。庭で生きている草の名前もわからない私ですが、こうありたいと強く思いました。

この後、県事務局の鈴木博氏により「大会宣言」がなされ、閉会式では、次期開催地区のいわき支部、村田哲氏による挨拶があり、西白河大会は終了しました。大会開催にあたった西白河支部をはじめ、関係する皆様、ありがとうございます。

美術館巡り

半澤 勝 士



美術品に興味を持つようになったのは、いつ頃だろうか。若い頃はそうでもなかったように思う。年を重ねるごとに、絵画芸術に惹

かれていった気がする。美術館巡りはテーマパークやコンサートに訪れるより経済的にも年金生活者にとって好ましい。県立美術館、郡山市立美術館、諸橋近代美術館には何度も訪れたが、特に東京上野にある四箇所の美術館には度々訪れた。

朝一番の高速バスに乗り、鑑賞後にとんぼ返りで自宅に戻ってくる。何とも疲れ

る行程であるが、充実感あふれた一日となる。人気のある企画展は非常に混雑するケースがある。渋谷文化村のザ・ミュージアムで催されたミレーの三大名画展では、美術館に入場するまで九十分、さらに展示室に入るまで六十分待たされた。

東京都美術館で開催されたレオナルド・ダ・ビンチ展でも入館までに九十分を要した。待つことが嫌いな私だが、これだけはあまり苦にならなかった。感動した美術展は数多くあるが、国立新美術館の開館記念として行われたモネ回顧展はすばらしかった。作品「睡蓮」よりも「印象日の出」「カササギ」の前からは離れがたかった。徳島にある大塚美術館も圧巻である。西洋名画が千点以上陶板で原寸大に再現されている。世界の名画が現地に行かなくても鑑賞できるのはすごい。

島根の足立美術館、倉敷の大原美術館は作品も館内外の景観もいい。喜寿を迎え残された時間であと何箇所美術館を訪れることができるのか。少なくともあと十箇所は巡りたいと思っている。



随想



シフトチェンジ

團原 正 雄



退職を機に現職中はなかなか参加できなかった地域活動に進んで参加してきました。その一つが民生児童委員活動です。

就任早々に東日本大震災が起きました。まだ右も左もわからないまま、私たちは避難所での炊き出しに向かいました。屋外にテントを張り、大きな釜で温かい食事を作り、一人ひとりに手渡す日々。疲れ果てた表情で列に並ぶ方々の姿は、今も忘れられません。

余震が続く四月の初めのことです。いつものように食事を配っていると、一人のおばあさんがそっと近づいてきました。「いつもありがとうございます。本当に助かっています。先日、会津塗りのお碗とお箸をいただきました。一生大事に使いますね。」そう言って、はにかむように笑ってくれたのです。その笑顔の温かさは、あれから数何年経った今も、ふとした瞬間によりみがえってきます。

その他にも心に残る出会いがたくさんありました。中でも十数年にわたって続けてきた、子どもたちと地域の高齢者との交流会は、私にとって大切な思い出です。子どもたちの書いた手紙を手に、少し照れながら喜ぶお年寄りの顔。昔遊びに夢中になる子どもたちの笑い声。そんな光景を見てお年寄りの表情がぱっと明るくなる。そんな時、この活動を続けてきてよかった

と心から思いました。気が付けば、当初目標にしていた十年はあっという間に過ぎ去っていました。現在は、ゆっくりと「軸足」を自身の趣味や健康、そして何より大切な家族との時間に向けて「移動」をしているところです。

第二の人生 楽しく

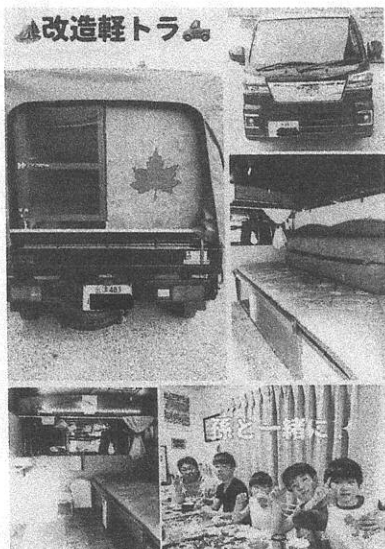
宇 南 山 忠 明

教職三十六年、行政職八年勤め、昨年の三月に退職し一年が過ぎました。退職前に、退職したら何かやるんですかと聞かれるたびに、以前から行っていた米作りと、妻とゆっくり旅行を楽しみたいと答えていました。

私には、中学三年生を頭に、下は小学校二年生の男四人孫がいて、食べ盛りの孫たちのためにも、米作りは欠かせません。今年も、四月は苗作り、五月には猫の手も借りたいほどの田植えも終わり、ようやく一段落です。十月の稲刈りまでは、田んぼの水管理と畦畔の草刈り作業があります。

農作業の合間をぬい楽しみたいと考え、今年二月に

幌付きの軽トラックを購入、荷台を自作でキャンピングカー仕様にしました。初めは興味がなかった妻でしたが、作業している様子を見ているうちに、色々と注文をつけるようになりました。



楽しみいろいろ

田植えも終わったことから、三泊の軽トラ車中泊旅行を計画中です。そして、秋の収穫が終わったところに、少し長めの旅行を計画したいと思っています。退職前から続けている高校時代の仲間五人との、毎月の定例飲み会も楽しみの一つです。集まるといつも話は尽きません。もう一つの楽しみは、日体大スキー部の同期会です。今年は六月に、北海道の小樽市で開催されることになり、今から楽しみです。

これからの第二の人生、健康で前向きに明るく元気に、孫たちの成長を楽しみに過ごしていきたいと思っています。

悠 悠 ひろ ば

部活動が地域にひらかれるとき

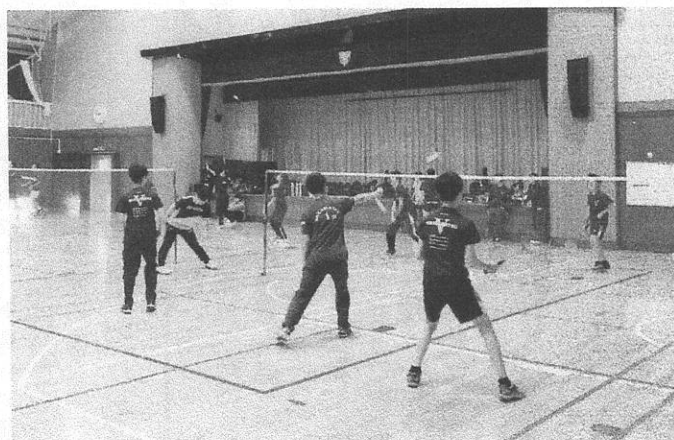
林 泰 嗣

定年退職してから八年が過ぎ、ボランティアを中心に活動してきました。その一つとして中学校バドミントン部の外部コーチを務め、平日も休日も地域の一人として関わってきました。

会津若松市では、今年度から休日の部活動を地域指導者が担っています。土曜日には市内の中学校バドミントン部の生徒が一つの体育館に集まり、コートいっぱいシャトルが飛び交います。能力別のグループに分かれ、六人の地域指導者が指導にあたります。

私が参加できるときは初心者グループを担当し、基礎指導で動作を実演すると、息が上がり歳を実感してしまうこともあります。それでもこの時間に元気をもらっています。

体育館への送迎は保護者の協力に支えられ、自転車通の生徒もいます。活動費は市の教育委員会が負担し参加しやすい環境が整えられています。これは教員の長時間勤務の負担を軽減す



地域で行う休日の部活動

るとともに、生徒にとっては他校の仲間と出会う新しい学びの機会となっています。

地域で行う部活動は、生徒、教員、地域指導者それぞれの立場から意味のある大切な時間になっていると感じます。生徒たちが生き生きとシャトルを追う姿に背中を押されながら、これからも地域で生徒たちと関わり、その成長を見守っていききたいと考えています。

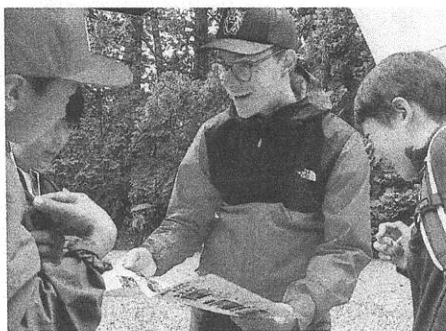
あいづならではの教育

我がが学び舎 会津

会津若松市立謹教小学校

校長 川井 孝 寿

会津若松市のほぼ中心にある本校は、正門から東を望めば、真っ正面に鶴ヶ城の天守閣が鎮座し、校庭の東側には会津日新館の天文台跡の石垣、少し南側の住宅街には大河ドラマ「八重の桜」で有名な新島八重の生家跡地と、会津の歴史とは切っても切れない立地環境にあります。故にお城はもとより、その街並みは格好の学びのフィールドです。そのため、総合的な学習の時間の学びは、常に鶴ヶ



外国人へ会津をPR

城や城下町から始まります。三年生は鶴ヶ城のつくりや特徴、美しさなどから、会津への興味関心を高めます。四年生は、会津への関心から漆器や絵ろうそくなどの伝統工芸を通して、会津の産業の歴史などを追究します。五年生になると地形を生かした町づくりや人々の生活へと発展し、会津という地域の成り立ち、生きる知恵なども学びます。そして六年生では、これまでの学びで積み上げてきた会津の魅力の発信に注力します。四季折々の美しさをはじめ、グルメ情報や数ある名所の見どころ紹介と、会津の良さをぎゅっと詰め込んだパンフレットなどを手に、修学旅行先の日光東照宮で、外国人観光客を中心にPRするのです。

また、六年生の代表が、毎年、市内の善龍寺で執り行われる奈与竹之碑前祭に参列し、「なよたけの歌」を奉納しています。「碑前祭」は、戊辰戦争で亡くなった会津藩の婦女子の霊を慰める祭事で、飯盛山の「墓前祭」や阿弥陀寺の「慰霊祭」と並ぶ、会津ならではの行事の一つです。市内の小学校では唯一本校だけが参列しています。子供たちは「なよ竹の 風にまかする身ながらも たわまぬ節は ありとこそ聞け」という西郷千恵子の辞世の句を、メロディに乗せた歌にして、碑前で謹んで奉納します。子供たちには、このような学びを通して、郷土を愛する心を培うとともに、他との関わりの中で自分を磨きながら、調和のとれた「なよ竹」のようなしなやかさとたくましさ身に付けてほしいと願っています。

大成の精神を

受け継いで

会津若松市立第三中学校

校長 伊達 東

「大成」とは、本校の校是であります。生徒玄関近くの記念碑だけでなく、校舎の様々な場所に掲示してあります。意味としては、「知識や理論ばかりの人にできる人間形成が大切」とされており、本校ならではの精神です。毎年行われている校内文化祭も「大成祭」、体育館も「大成館」としており、生徒たちは校是「大成」のもと、充実した学校生活を送っております。



記念碑「大成」

本校では、校是「大成」にもつながる人間形成、主体的に学ぶ生徒の育成を目指し、現職教育として教職員全員で研究を進めています。

予測困難な社会を生き抜く子どもたちだからこそ、自ら課題を見付け、他者と協力して解決へと向かう「主体的な学び」が求められると感じています。本校では、生徒同士の「心理的安全性」を高める人間関係づくりを土台とし、対話を通して思考を深める「協働的な学び」を充実させることで、生徒一人ひとりが自ら学びを構成し、「主体的に学ぶ生徒」へと成長していく姿を目指しています。そこで、生徒一人ひとりが互いを認め合い、安心して自己表現ができる豊かな

人間関係を基盤とした学級経営が図られるよう、SGE（構成的グループ・エンカウンター）等の手法を用いた信頼関係の構築や、意見の可視化を組み合わせることで、他者との関わりの中で自己の考えを更新する喜びを実感させ、「主体的な学び」につながるよう研究を進めています。

生徒へ働きかける教師のエンカウンター技能習得に向けては、外部から講師を招聘し、校内研修を行っており、学期のはじめや各行事に合わせ、各学級で実施しています。

また、生徒一人一人の将来に大きく関わる校長としての責任の重さも感じています。

生徒たちにどのような力を身に付けさせることが必要なのか。どのような取組みをすれば、生徒たちの豊かな生活につながるのか。もちろん学校だけの問題ではないこともわかっていきます。自分の将来は生徒自身で切り拓かねばならないことも。だからこそ、教職員一丸となって、生徒が「大成」するよう尽力してまいりたいと思います。

馬 場 泰

「まちなかをアートする」今、アーティストと店舗をつなぎ、面白いまちづくりに取り組んでいます。会津美術協会HPをご覧ください。き、「ねござんまいアート展」などをお楽しみください。

兼 子 栄 一

家の隅の草ぼうぼうの小さい畑をきれいにして野菜の苗を植えました。毎年やっているのですが、毎年草ぼうぼうで終わっています。今年こそきれいな畑で冬を迎えたいと思っています。

星 信 男

丁寧に行う事も時間の無駄遣いと感じるこの頃です。教養は「今日の用事」、教育は「行く場所」、貯金は「貯筋」と捉え、ゴルフ仲間との交流を楽しみながら平凡に過ごしております。

佐 藤 裕 哉

赤カボチャの苗がだいぶ育ってきた。蔓は空をめざし、やがてオレンジに輝く実がなる(予定)。蔓を整え消毒、追肥と忙しい。天ぶらが最高においしい。果たして今年の出来やいかに?!

遠 藤 修 一

退職して四年目。諸事情で手がつけられなかった実家の整理をしています。仏間を現自宅に移し、さて次と思っていたところ、義実家での不幸等があり、なかなか進みません。

大 坂 恭 一

先日、新採用間もない頃担任した生徒の同級会に出席しました。当時の顔思い出しながら、今だったらもう少しマシな授業が出来たのに、未熟で申し訳なかったと悔やむことしきりでした。

弓 田 篤

新緑の美しい季節、皆様お元気にお過ごしのことと 생각합니다。退職後、合唱団で合唱を続けております。様々な曲や音との出会い、そして共に歌う方々との喜ばしい出会いがあります。

大 堀 浩 平

退職からはや十年。十月に古希を迎える。振り返ればあっという間に駆け抜けていった月日。願わくばもう少し、ゆるりと穏やかに喜寿を迎えたい。果たしてどうなることか。合掌

木 村 なるみ

退職後、時間の使い方に迷う事が多くありましたが、現在は生活のリズムも落ち着いてきました。今後は、どのように社会と繋がりながら生活していくかを考えているところです。

岡 崎 秀 明

愛犬と一緒に旅をするため退職と同時にキャンピングカーを買い、あちこち旅して思い出を作ってきましたが、愛犬が歳をとり最近あまり出かけられなくなってしまったのが寂しいです。

湯 田 一 秋

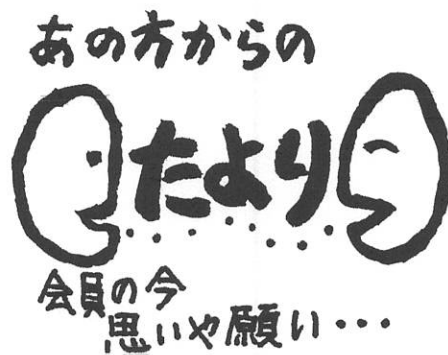
人生は無駄なことなき昼寝かな 八十九歳の句友の作品。この忙しいのに昼寝とは、と言われて「人生には無駄なことなんてないのよ。」と言ったという。そうだよねと感心しきりの私。

酒 井 完

「きたあいづ」の原稿依頼が届きました。皆さんからたまには顔見せろ。と言われているので良い機会でした。ありがとうございます。元気に、そして結構忙しく過ごしております。

田 代 新 一

昨年度より大戸まちづくり協議会のお手伝いをしていきます。竹林、梅林、栗林の管理、メンマやジャム、漬物製造、ジャガイモ、サツマイモ、ハックルベリー等の栽培…。充実しています。



このコーナーでは、会員の皆さまお一人お一人から、近況や、今の思いなどについて、お寄せいただいております。

生まれ月順でお願いをしております。89号は、9月、10月生まれの方からいただきました。ご多用の中、ほんとうにありがとうございました。次回90号は、10月、11月生まれの方から頂戴いたします。ご協力よろしく願います。

事務局コーナー

おめでとうございます

◇高齢者叙勲で

受章された会員

瑞寶雙光章

二瓶 修 様

令和8年4月1日

瑞寶雙光章

本多 勝 男 様

令和8年4月1日

瑞寶雙光章

星 野 重 道 様

令和8年5月1日

瑞寶雙光章

太 田 悦 子 様

令和8年6月1日

◇功績により

表彰を受けられた会員

県文学賞「俳句部門」準賞

湯 田 一 秋 様

令和7年11月3日

厚生労働大臣感謝状

(民生委員・児童委員)

團 原 正 雄 様

令和7年11月30日

◇令和八年度「寿詞」

(満百歳)を受けられる会員

浅 沼 恒 昭 様

昭和2年3月11日

◇令和八年度「賀詞」

(満八十八歳)を受けられる会員

星 野 重 道 様

昭和13年4月12日

太 田 悦 子 様

昭和13年5月3日

吉 田 信 様

昭和13年7月21日

小 林 清 様

昭和14年3月1日

◇令和八年度「喜寿」を

迎えられる会員

園 部 俊 和 様

昭和24年4月4日

穴 澤 真 澄 様

昭和24年4月8日

半 澤 勝 士 様

昭和24年4月20日

佐 藤 憲 様

昭和24年7月14日

團 原 正 雄 様

昭和24年7月27日

渡 部 四 郎 様

昭和24年9月1日

目 黒 豊 光 様

昭和24年9月22日

奥 建 様

昭和24年10月14日

川 上 閔 男 様

昭和25年2月18日

齋 藤 茂 様

昭和25年3月3日

山口 善 巳 様

昭和25年3月22日

生前のご活躍に感謝申し上げますとともに、慎んでご冥福をお祈りいたします。

兼 子 和 男 様

令和8年2月8日ご逝去

新井田 滋 雄 様

令和8年2月24日ご逝去

◇前号以降の主な活動

○県理事会

・三月十三日

於 吾妻学習センター

○会計監査・第二回理事会

・三月十四日

於 河東公民館

○総会・懇親会準備役員会

・四月九日

於 河東公民館

○支部総会・講演会・懇親会

・四月十二日

於 ルネッサンス中の島

○県評議員会

・四月二十四日

於 吾妻学習センター

○第一回幹事会

・四月二十五日

於 河東公民館

○連絡員会議

・五月九日

於 河東公民館

○第六十回福島県公立学校
退職校長会西白河大会

・六月九日

於 シン鹿島

○第二回幹事会

・七月十一日

於 河東公民館

○『きたあいづ八十九号』

発行

・七月十一日

○暑氣払い懇親会

・七月十一日

於 ルネッサンス中の島

お知らせ

たくさんのご参加お待ち
しています。

○福祉部事業

『施設見学研修』

期日 七月二十八日

場所 会津大学

『憩いの集い』

期日 十月二十日

場所 三義漆器店

○研究調査部事業

『現職退職校長会教育懇
談会・懇親会』

期日 十一月十四日

場所 ルネッサンス中の島

編集後記

水を張った田んぼに朝日
や夕日が映り、幻想的な風
景が見られる季節になりま
した。会津地方の自慢の風
景の一つです。この度も多
くの先輩諸兄から玉稿をお
寄せいただき、支部報第八
十九号を皆様にお届けでき
ますことに厚く御礼を申し
上げます。

先月の台風6号は各地に
大きな被害をもたらしまし
たが、幸い会津域内では大
きな被害がありませんでした。
会津地方は自然災害の
少ない地域とも言われます。
かつてこの地域に根を下ろ
した先人たちの、先を見通
した判断力に改めて深い敬
意を表せざるを得ません。
さて、現在の教育界は少
子化や教職員不足をはじめ
課題が山積しています。こ
うした中、福島県教委は全
国に先駆けて「教職員の働
き方改革共同宣言」を発表
し、県全体で取組を加速さ
せる強い決意を示しました。
先人が遺したこの会津の地
で、次世代を担う子どもた
ちと教職員が共に輝ける持
続可能な教育環境をつくる
ため、退職校長会も豊かな
経験を活かし、今後も変わ
らぬ情熱をもって共に歩み
を進めていければ幸いです。